

# Pearl club

ISE NEWSPAPER LADIES MEETING

vol.22

2023.4

パール通信





藤森課長より感謝状を授与される小笠原会長



## パール倶楽部が全体総会

県子ども基金へ寄付も

三重県内のビジネス、芸術文化、ボランティアなどの各分野で活躍する女性らが、異業種交流や自己研さんを通じて社会貢献を目指す「伊勢新聞パール倶楽部」（小笠原まき子会長）は、津市羽所町のアスト津で2022年度全体総会&特別講演会を開きました。コロナ禍で3年ぶりの開催。

同倶楽部に所属する51人中18人（内30人が委任状提出）が出席。小笠原会長は「大変な世界情勢の中ですが、新年度もできることから少しずつパール倶楽部を前進させよう」とあいさつされました。議事では、昨年度の事業・収支報告と本年度の事業計画・予算計画の4議案を承認しました。

総会に先立って、伊勢新聞社の小林千三社長が「マスメディアによるやらせ、演出と誘導」をテーマに講演。ドキュメンタリーとして報道されていることも、慎重に見極める目を持つことが大切だと話されました。

総会后、県子ども基金への寄付金贈呈式がありました。小笠原会長が藤森正也子ども・福祉総務課長に10万円の目録を手渡し、藤森課長は「子ども施策の取り組みに有効に活用します」と一見勝之知事の感謝状を読み上げました。

令和4年6月13日



講師の杉本館長（前列左から4人目）を囲んで笑顔の参加者ら＝桑名市江戸町の柿安料亭本店で

## 桑名の歴史文化学ぶ

### 秋の研修会

桑名市で秋の研修会を開きました。

20人が参加。参加者は桑名市博物館・杉本竜館長の講話、旧東海道宿場町「七里の渡し」や旧城下町の散策、「柿安料亭本店」（同市江戸町）での昼食を楽しみ、親睦を深めました。

杉本館長は「東海道宿場町・桑名の歴史文化を語る」と題して講話。なぜ桑名が宿場町として発展したかについて、①中世以来有数の港町、材木と米の集積地で、富裕な商人が多く誕生②徳川家康譜代の臣・本多忠勝が「慶長の町割」で近世城下町を形成③東海道の制定で42番目の宿駅に選ばれ、宿場町として繁栄④弱点は水害と生活用水不足―の順に分かりやすく説明し、参加者らは桑名の歴史と文化についての理解と愛着を深めていました。

小笠原会長は「これからも桑名を愛していただきたい。コロナ禍で2年ほど活動出来なかったが、パール倶楽部はこれからも真珠のネックレスのようにつながっていきたい」とあいさつ。中川千恵子顧問は「桑名は鑄物の町のイメージが強かったですが、東海道の要衝だったのでね。お話を聞いていろんな桑名の魅力に触れることが出来ました」と話されました。

令和4年10月4日



一見知事を囲んで=津センターパレスにて

## 「躍進の一年に」

新春特別例会 一見知事講演を聴講

伊勢新聞政経懇話会「三重の明日のために」三重県庁による果敢な挑戦」と題された一見勝之三重県知事の講演を聴講しました。「今年躍進の一年にしたい」と強調。「知事としての責任を痛感している。ふるさとのためにしっかり頑張りたい」と述べ、防災対策や子育て支援、観光振興などに努める考えを示されました。

一見知事は「三重県を前へ」を意識して県行政を進めたいと説明。「県民は前に出るのが他県の人より苦手だが、三重にはすごく良いところが山ほどある。外国にも訴えなければならぬ」と述べられました。6月に志摩市内で開かれるG7（主要国首脳会議）の交通大臣会合が「前進」のきっかけになると強調。「再び三重がクローズアップされる機会。三重を前に押し出せるポイントだ」と語り、リニア中央新幹線も県を「前進」させる要素の一つだと説明。その上で「リニアの効果が最大限、県全体に及ぶようにしなければならぬ」と強調。3カ所を提案している県内駅の候補地について「おそらく来年度には一つに絞り込まれる」との見通しを示されました。

「今年の実行に移す年」とし、来年度は防災減災対策に予算を重点的に配分すると説明。岸田首相が4日の年頭記者会



前葉津市長を囲んで=津センターパレスにて

見で「異次元の少子化対策」を掲げたことを踏まえ、子育て支援を充実させる考えも示されました。築35年で老朽化が進む北勢児童相談所（四日市市）に、涙を浮かべて「知事として情けない」と語る場面も。「ハコモノと批判を受けてもやらなければならない」と述べ、建て替える考えを示されました。

「観光関連の予算も倍増させる」と説明。来年の熊野古道世界遺産登録20周年や4年後のリニア品川―名古屋間開通、10年後の伊勢神宮式年遷宮を見据えて「多くの人に来てもらえるようにしたい」と語られました。

初の海外出張となった台湾訪問の成果も紹介。百貨店でのトップセールスでは「三重の人気の高いと再認識した」とし、県内に進出する半導体企業との懇談では「投資に前向きだと感じた」と振り返りました。

知事就任時にミサイルへの備えを尋ねたところ、職員らは「何を言っているんですか」との反応だったと紹介。「ミサイルが飛んでこないとは言えない」と述べ、訓練や避難施設の指定に意欲を示されました。

この日の政経懇話会は、伊勢新聞の創刊145周年を記念した新春特別例会として開催。政財界などから約百人が出席しました。講演後の祝賀会では伊勢新聞の歴史を紹介した後、前葉泰幸津市長の音頭で乾杯しました。

令和5年1月19日



小西氏を囲んで=鳥羽市 鳥羽国際ホテルにて

## 真珠の講演やひな人形鑑賞

鳥羽・伊勢で春の研修会

鳥羽市で春の研修会を開きました。

26人が参加。鳥羽市の鳥羽国際ホテルで元伊勢パールセンター代表の小西<sup>しん</sup>蒨さんの講演会と昼食、伊勢市で開催中の「おひなさまめぐり in 二見」の主会場である国指定重要文化財「賓日館」に展示されている江戸から明治、現代の創作ひな人形まで1000体余の見学や周辺の散策を楽しみながら親睦を深めました。

小西さんは「生きた宝石パール、その命の輝き」と題して講演。27歳で真珠に出会い、60年近く真珠の加工・販売に携わってきました。形がいびつで廃棄されていた変形真珠（バロックパール）に魅せられ、彫金の腕を生かして作品に仕上げるなど、真珠の魅力を国内外に発信されてきました。「昨年廃業したが、真珠を通して出会った方々との交流が人生の宝」だと話されました。

小林千三伊勢新聞社社長は、「女性の時代」をテーマにスピーチ。各界での女性の活躍を紹介し、参加者らにエールを送られました。

参加者有志は伊勢市二見町の「賓日館」に移動し、江戸後期の寛永びなや古今びな、御殿飾りなどに歓声を上げながら鑑賞していました。



講演される小西氏



伊勢二見 賓日館にて



同倶楽部初代会長の中川千恵子顧問は「小西さんの『友だちはもう一人の私』という言葉に感銘を受けました。自身の資質を高め、仲間との友情を深めていきたい」と話されました。

令和5年3月1日

## 2023(令和5)年度会費納入のお願い

【振込先】 百五銀行本店営業部 普通 1125648  
伊勢新聞社パール倶楽部 会長 中川千恵子  
金額(年会費) ¥2,000-

※お手数ですが振込手数料は会員様でご負担いただきますようお願い申し上げます。

※振込先名義は、都合上、前会長の氏名になっております。



### 伊勢新聞パール倶楽部事務局

〒514-0831 三重県津市本町34番6号

株式会社伊勢新聞社販売部内

TEL:059(224)4400 FAX:059(226)3554

HP: <https://www.isenp.co.jp/plc/>

表紙写真=パール倶楽部全体総会参加者ら=津市羽所町のアスト津にて